

2020年度事業報告

特定非営利活動法人デートDV防止全国ネットワーク

1 事業の成果

デートDV予防教育を普及するため、効果測定調査を行い、効果があることを実証することができた。効果測定調査の設計に先立ち、デートDVの発生要因について、先行研究のリサーチ、関係者へのヒアリングを行ったうえで、団体内で議論を行った。デートDVの発生要因および抑制要因を変数として洗い出し、その因果関係を図式化し、デートDVの構造を表すプロブレムツリーを作成することができた。そのうえで、デートDV予防教育によって受講した生徒に起きる変化を成果として測定するための指標を選び、調査票を作成した。デートDV予防教育を受講する中学生 855 人に、受講前後に調査を実施したところ、「暴力の認知」「暴力の許容」「ジェンダー観」のそれぞれの尺度において、予防教育が有意に効果があったという望ましい結果を得ることができた。

台湾の民間団体ガーデン・オブ・ホープ基金の協力を得て、台湾におけるDV防止のための取組について、具体的な情報を得ることができた。

台湾では、すべての子どもがDV防止、性暴力防止、そしてジェンダー平等のための教育を毎年 20 時間以上受ける体制があることを踏まえ、日本でもデートDV予防教育の義務化を求める政策提言を行うため、11月19日衆議院第一議員会館にて、院内勉強会を開催した。

会場には国会議員 11 人を含み総勢 50 人の参加者が集まったほか、全国で 120 人以上の一般参加者が web での生中継映像を視聴した。政策提言に向けての第一歩を踏み出せた。

デートDV防止スプリング・フォーラム 2021 を 3 月 7 日に新型コロナウイルス感染症のために完全オンラインで開催し、175 人が参加した。午前の部では、内閣府、文部科学省、警察庁による行政説明に続き、基調講演として、台湾ガーデン・オブ・ホープ基金の代表王氏が台湾でのDV防止の活動の歩みを講演、さらにユースプロジェクトとして性的同意についての大学生の取組が紹介された。午後には、「コロナ禍で見えてきたジェンダーと暴力の問題からデートDV予防教育の可能性を考える」と題しシンポジウムを開催し、続いて効果測定調査の結果報告を行った。最後に、未来に向かって世代を超え繋がるろうという大会宣言が発表され、閉会した。

講演会、スプリング・フォーラムをオンライン開催することによって、全国からの参加があり、情報共有を始めとし、短時間ではあったが参加者間の交流ができたことは、全国的なネットワークとしての連携を深めること、情報を広く共有する結果となった。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① デートDV予防教育の普及事業

- ・内 容 デートDV予防教育の効果を測定するため、全国5か所で855人の中学生を対象に、調査を実施した。
- ・日 時 11～12月
- ・場 所 北海道、神奈川県、兵庫県、山口県、長崎県の中学校
- ・従事者人員 20人
- ・受益対象者 デートDV予防教育を受講した中学生855人
- ・支 出 額 920,000円

② 政策提言とそれに向けてのロビーイング

- ・内 容 DV防止法を改正し、デートDV予防教育の義務規定を創設することなどを求め、国会議員らを対象とした院内勉強会を開催し、オンライン配信を兼ねたハイブリット方式で実施した。
- ・日 時 11月19日
- ・場 所 衆議院第一議員会館およびオンライン
- ・従事者人員 14人
- ・受益対象者 国会議員11人およびデートDV防止活動を行う者や記者等40人、
オンラインでは120人
- ・支 出 額 252,268円

③ デートDV当事者支援のための連携事業

- ・内 容 コロナ禍で深刻化していると言われる暴力についてどんな支援が必要であるか、また予防教育はどのような可能性があるのかを考えるため、スプリング・フォーラムの中でシンポジウムを開催した。全国女性シェルターネットの北仲代表から若い世代への暴力の現状、つじゅうさく氏からはLGBTsへの支援の重要性、そして太田啓子弁護士からは性差別や暴力をなくすための男の子の育て方についての講演があった。
- ・日 時 3月7日
- ・場 所 オンラインにて
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 デートDV防止活動を行う者または本活動に関心がある者および一般175人

・支出額 200,000 円

④ 実態調査や効果測定などの調査研究

・内容 デートDVの発生要因を洗い出し、それぞれの要因の因果関係を表すプロブレムツリーおよびソーシャルエコロジカルモデルを作成することによって、デートDVの構造を可視化した。さらに被害によってもたらされる社会的コストの見積もるため国内外の先行研究をリサーチした。予防教育の目的と効果について検討会を開催し、効果測定調査の設計を行った。

・日時 4～3月

・場所 コノベース事務所およびオンライン

・従事者人員 デートDV予防教育を行う実施者・有識者等20人

・受益対象者 デートDV防止活動を行う者または本活動に関心がある者175人

・支出額 2,195,710 円

⑤ 会員同士の情報共有、連携のためのフォーラム、シンポジウム等の開催

・内容 「SDGsから考えるデートDV」と題し大崎麻子氏の講演会をオンラインで開催した。さらに、会員同士の情報共有、連携のため、より多くの人に活動を周知するために「デートDV防止スプリング・フォーラム2021」をオンライン開催し、基調講演では台湾のGOH (The Garden of Hope) 基金代表王氏より台湾の状況を学ぶなど、有意義な機会を提供することができた。

・日時 6月14日および3月7日

・場所 いずれもオンライン

・従事者人員 10人

・受益対象者 デートDV防止活動を行う者または本活動に関心がある者150人(6月)、175人(3月)

・支出額 1,475,989 円

⑥ 啓発活動

・内容 デートDVについて全国の活動について情報を発信し、啓発を促進するためにHPを運営、さらにSNSで拡散した。性

的同意について活動する大学生の動画を作成し配信した。会員への情報提供としてメルマガを毎月発行した。

- ・日 時 通年
- ・場 所 団体事務所等
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 デートDVに関心がある人およびデートDV防止活動を行う若者
- ・支 出 額 604,242円